



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 岩本ゼミナール機関誌 1998, 2

ISSUE DATE:

1998-03-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56849>

RIGHT:

岩本ゼミナール機関誌

第2号

1997年度版

京都大学 経済学部

岩本武和研究室

岩本ゼミナール機関誌 第2号

目次

巻頭の言葉	岩本 武和	3
I ゼミ単位取得論文		
1. 日本式経営の心理的側面からの一考察	加地 健一	5
2. ややこしい事業環境での経営戦略	下村 勝紀	2 3
3. グローバル・スタンダード	桐山 友一	4 6
4. リージョナリズムとグローバリズムの整合性	田中 みゆき	6 1
5. 日本型雇用システム	鎌田 研人	8 1
6. 沖縄の可能性と振興策の考察	前田 奈都子	9 6
7. 消費税の効果	Micheal Tabart	1 1 0
II 2・3回生年間活動報告	岡崎 将也	1 2 9
III インゼミ活動報告	猪俣 明彦	1 3 2
IV 自由論題		
1. アジア通貨危機と日本の金融恐慌	岩本 武和	1 3 7
2. 推測的変動を組み込んだ2国2財2要素産業内貿易モデル	岩本ゼミティーチングアシスタント 高橋 信弘	1 4 3
3. 日本の援助受入政策と国産小麦衰退との関連性	岩本ゼミティーチングアシスタント 柴田 繁紀	1 6 0
V 卒業生からの言葉		1 8 7
VI 96年度岩本ゼミナール決算報告	田中 みゆき 川村 直弘	1 9 0
VII 編集後記	加地 健一	1 9 1
VIII ゼミフォト集 & 名簿		1 9 2

編集後記

岩本ゼミナール機関誌も無事、第二号を発行することができました。一期生の加藤さん、二期生の谷口さんと、優秀な方がゼミ長をされている岩本ゼミも、私がゼミ長になった時点で、もはやこれまでかと思っていたのですが、なんとかここまで、たどり着くことができました。これも、全て皆様のおかげです。有り難うございます。

早いような、長かったような大学生活とゼミでの三年間が過ぎます。ゼミにはこの春から六期生が参加しますし、高橋さんも教鞭を執られて、学生生活を終えられます。僕たち三期生も（何人か除いて）新しい生活を、これからは社会人として始めます。そんな中、岩本先生には、これからも変わらず、いつでも私達が戻ってこれるゼミを残しておいて欲しいと願うのは、わがままでしょうか。

私は岩本先生ほどゼミにエネルギーを注いでいる先生はおられないと思います。それも、生徒の一人一人を大切に、どんなことがあっても褒めて、生徒の Selfesteem を傷つけない点は、教育者として、尊敬の念を抱かざるをえません。私のような無能な人間をも評価し、本来、知っていても当たり前前の経済のいろはを、根気強く教えていただき、ありがとうございました。（でも、飲みだすと、さすがに私もついていけませんでした。さらに、最近では、飲んでいなくても、という噂が…）これからは、はったりだけで生きるのではなく、それなりの実力を身に付けるよう精進します。

寄付金についてですが、来年からは、機関誌の発行部数が40部ほど必要なくなります。（学部内教員に配布しなくなるため。）それに、これまでの繰越金を考慮し、来年の寄付金や、ゼミ生の積立金を決めていこうと考えています。予定では、今までよりも、負担が軽くなるはずですので「寄付金が高いぞ」というクレームも少なくなるのではないかと思います。

最後に、寄付をして下さった皆様、寄稿していただいた岩本先生、TAの高橋さん、柴田さん、ゼミ長の岡崎君、インゼミ担当の猪俣君、会計の田中さんと川村君、デジカメ編集に関して永田君、そして、機関誌製作に関して、励ましやアドバイスを頂いた先輩の皆様、心より感謝します。そして、三期生と、そうでないけれども今年卒業する、卒業生一同、岩本先生と、岩本ゼミのみなさんに、感謝の言葉で、三年間を締めくくらせて頂きたいと思います。みなさん、どうも、有り難うございました。

1998年2月25日

編集委員 加地 健一

岩本ゼミナール機関誌 第2号
1997年度版

1998年 3月23日
京都大学 経済学部
岩本武和研究室 発行
禁無断転載